水を求め 列また列

千葉断水「原因は」住民不安

首都圏に水を供給する利根川水系で、化学物質ホルムアルデヒドが検出された。千葉県の広い範囲が断水になり、給水所では多くの人が列をつくった。原因は何なのか。再発の心配はないのか。住民の不安はおさまらない。

▼1面参照

千葉県野田市では、6カ所の給水所に住民らが列をつくった。民生委員の島畑辰紀さん(71)は独り暮らしのお年寄りらに配るため、10リットル入りの非常用ポリ袋十数個で水を受け取った。ホルムアルデヒドは発がん性も指摘される化学物質。「問題が起きた原因を知りたい」

自宅の水道が出なくなって初めて断水を知ったという比留間新吉さん(63)は20リットル入りポリタンク2個を持って訪れた。「もう少しほしかったが、容器がなかったので」。給水所に向かう道には車の列が2～3キロにわたって続いていた。

柏市では約16万世帯が減断水した。給水所になった市立柏第三小学校にはポリ容器やバケツなどを抱えた市民らが200～300メートルの列をつくった。酒店経営の栗林輝幸さん(54)はメールで給水場所を知り、駆けつけた。「昼前に15ケースあった店の水が全部売れてしまったので並びました」

病院などの医療・福祉施設には、自治体の給水車が回った。人工透析患者を抱える野田市の野田中央病院の女性職員(55)は「透析は大量の水が必要。断水が長引くと不安です」。野田市のキッコーマン総合病院では、急きょ井戸水を医療用に回して対応した。

給水を求め、人々が長蛇の列をつくった＝19日午後4時20分、千葉県柏市の光ケ丘中学校、本社ヘリから、金川雄策撮影

化学物質と塩素 反応して生成か

ホルムアルデヒド

汚染源はどこなのか。

群馬県と高崎市は19日、利根川に注ぐ烏川とその支流の7地点と、汚染の原因となり得る化学物質を扱っている企業1社の排水を採水し、検査機関に送った。このうち3地点は、測定器で検出できる下限（1リットルあたり0・008ミリグラム）より小さい可能性が高く、残る烏川と井野川の4地点と企業の排水は分析中という。

埼玉県も、ホルムアルデヒドを生成する物質を大量に排出する可能性がある事業所2社を調査したが、通常値の範囲内だった。

ホルムアルデヒドは通常、接着剤や塗料などに使われるが、埼玉県はこれまでの調査から「ヘキサメチレンテトラミン」と呼ばれる別の化学物質が、浄水場の塩素と反応してホルムアルデヒドが生成された可能性があるとみている。

ヘキサメチレンテトラミンは化学工場で樹脂や合成ゴムなどを製造する際の硬化剤、発泡剤、医薬品、火薬などに用いられる。烏川周辺にはこの物質を扱う事業所が複数あるという。

汚染知りながら宴席

群馬県の水道担当幹部ら

群馬県の水道担当者が、17日午前11時ごろに下流の埼玉県から汚染情報を得ていたにもかかわらず、同日夜に宴席を開いていたことが分かった。

県の水道管理の担当者らによる懇親会で、県企業局トップの企業管理者や水道課長ら30人余が出席して、午後6時～9時ごろに前橋市内の施設で開かれた。後でホルムアルデヒドが検出された東部地域水道浄水場（千代田町）の担当者も出席していた。県水道課の今井洋一課長は朝日新聞の取材に対し「水質には波があるので、このレベルの数値であれば問題ないと思い、懇親会に出た」と話した。

同浄水場では、18日午前11時半に採取した原水に、浄水と同じように塩素を加えたところ、水道水の基準値（1リットルあたり0・08ミリグラム）を超える0・098ミリグラムが検出されたため、同日午後11時45分に取水を停止した。（牛尾梓）

© 朝日新聞社　無断複製転載を禁じます。
すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。